

「新技術に基づくメディア／デバイスを活用した 学習支援環境」特集号の発刊にあたって

國宗 永佳

(千葉工業大学情報科学部, 学会誌編集委員会幹事)

1. はじめに

近年のコンピュータおよび関連するメディア／デバイスに関する技術の進展に伴って、数年前までは限られた環境や設備がなくては実現することのできなかったさまざまな技術や体験が身近なものになっている。その代表的な例として、スマートフォンの普及と高性能化や人工知能技術のめざましい発展に伴って、拡張現実 (Augmented Reality; AR) や仮想現実 (Virtual Reality; VR) をいつでも・どこでも体験することが可能になっていることが挙げられる。また、遠隔操縦や自律飛行が可能なドローンを用いて撮影された映像に触れることや、大小さまざまなロボットに近隣の施設や飲食店など身近なシーンにおいて出会うことも珍しいことではなくなっている。ほかにも、モバイルネットワークの普及やデバイスの小型化などに伴う「モノのインターネット」(Internet of Things; IoT) の発展など、新技術の登場や進展に伴う新たなメディア／デバイスの発展については枚挙にいとまがない。

さらに、上述のような普及期に入りつつあるメディア／デバイスの後を追うように、例えばウェアラブルセンサデバイスを用いた生体情報の取得や、人の感情を分析するアフェクティブコンピューティングなども身近なものになりつつある。

このような技術の進展を受けて、さまざまな新しいメディア／デバイスを教授・学習活動の支援に応用しようという試みが広く行われている。これらの試みのなかには、普及期に入ったメディア／デバイスを実践的に活用した事例や、これから普及していくであろうメディア／デバイスを先導的に活用している事例など、さまざまなものがある。

本学会誌では 2007 年に特集号「新しいメディア／

デバイスを活用した学習支援環境」を発刊した。それから 12 年が経過し、前述したように数多くの新技術に基づくメディア／デバイスが生まれてきた。また、これらのメディア／デバイスは現代および次世代の学習支援システムを考える上で欠かすことのできないものになっている。

以上のことをふまえて、本学会誌では、「新技術に基づくメディア／デバイスを活用した学習支援環境」をテーマとする特集号を企画した。本特集号では、当該テーマにおける新たな教育支援技術、ならびに当該分野の技術を応用した教育実践に関する論文を幅広く募った。

2. 論文の投稿数と判定結果

2018 年 6 月 8 日の投稿エントリ締切、2018 年 6 月 14 日の論文投稿締切を経て、最終的に 9 編 (一般論文^(注1) 4 編, 実践論文 2 編, ショートノート 3 編) の投稿があった。厳正な査読を経て本特集号には、一般論文 3 編, 実践論文 2 編, ショートノート 3 編を採録した。

本特集号にはさまざまな新技術に基づくメディア／デバイスの学習支援への活用に関する先導的な事例や実践的な事例が多く含まれている。本特集号が新たな研究を萌芽させる、あるいは遂行中の研究をさらに発展させる契機となれば幸いである。

3. 特集論文研究会

今回で 10 回目となる特集論文研究会が研究会委員

(注1) 35 巻 1 号から“原著論文”を“一般論文”に名称変更している。